

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)
百舌鳥古墳群周辺地区

令和8年2月

大阪府堺市

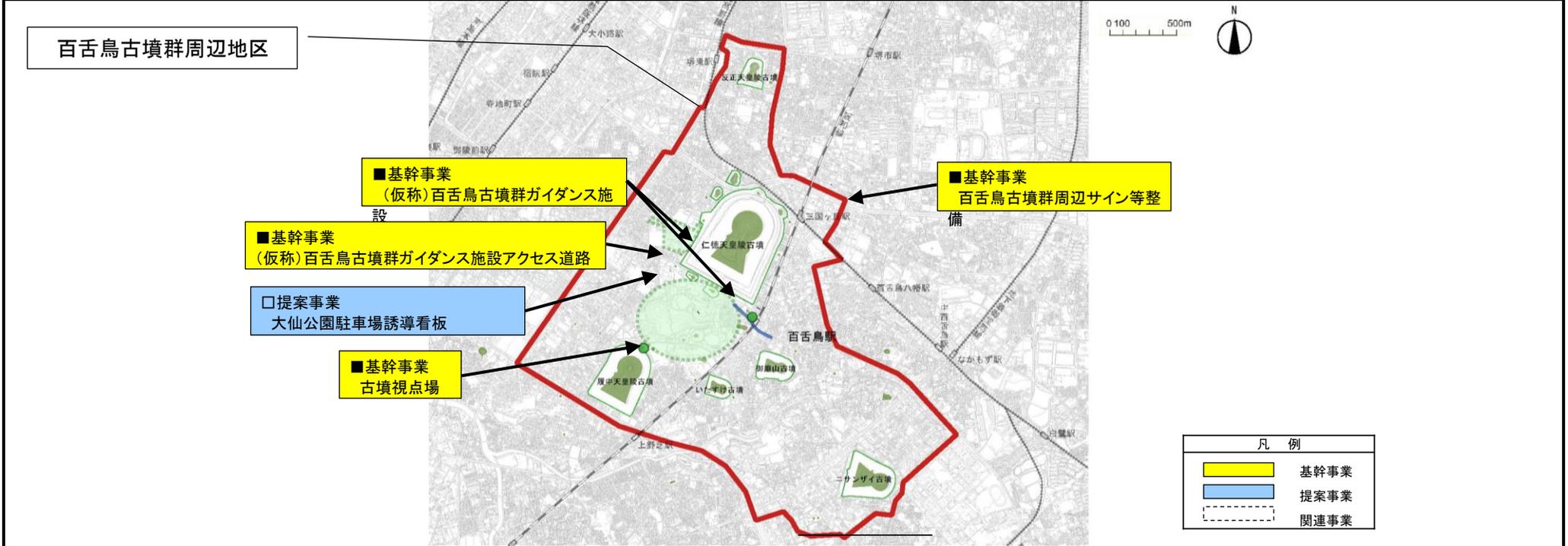
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	堺市		地区名	百舌鳥古墳群周辺地区			面積	607ha			
交付期間	平成28年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	304	国費率	0.45					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路:(仮称)百舌鳥古墳群ガイド施設アクセス道路、地域生活基盤施設 広場:古墳視点場、地域生活基盤施設 情報板:百舌鳥古墳群周辺サイン等整備、高次都市施設 地域交流センター:(仮称)百舌鳥古墳群ガイド施設											
		提案事業	なし											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名											
		提案事業	削除/追加の理由											
	新たに追加した事業	基幹事業	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響											
		提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成28年度～令和2年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	指標1	JR百舌鳥駅の乗降客数(定期利用外)	千人/年	439	基準年度 平成25年度	540	目標年度 平成32年度	モニタリング	評価値	274	△	あり なし ●	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、目標達成は困難であった。	令和9年6月
	指標2	堺観光先ランテアアカイトの件数(仁徳天皇陵古墳群前)	人/年	33,008	平成26年度	40,600	平成32年度				△	あり なし ●	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、目標達成は困難であった。また、ガイド体制の変更により、現在は単純な比較が困難である。	令和9年6月
	指標3											あり なし		
	指標4											あり なし		
	指標5											あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	その他の数値指標1													
	その他の数値指標2													
	その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	—			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—					
	住民参加プロセス	—			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—					
	持続的なまちづくり体制の構築	—			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—					

様式2-2 地区の概要

百舌鳥古墳群周辺地区(大阪府堺市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:百舌鳥古墳群周辺地区に存在する歴史文化資源を活用して、まちの賑わい創出と都市活力の向上を図る。 目標1:百舌鳥古墳群を安全、快適に移動できる環境を整えることで、周遊魅力を高めるとともに、古墳群を身近に感じ、その価値を体感できる周遊拠点を整備することで来訪魅力を高める。	JR百舌鳥駅の乗降客数(定期利用外)	単位:千人/年	439 H25	540 R02	274 R02
	堺観光ボランティアガイドの件数 (仁徳天皇陵古墳群前)	単位:人/年	33,008 H26	40,600 R02	16,258 R02
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



まちの課題の変化

- ・世界文化遺産登録に伴う来訪者の増加を持続的なものにするため、来訪者の満足度を高める「おもてなし」の環境を継続的に維持、向上させていく必要がある。
- ・百舌鳥古墳群のほぼ中央に位置し、仁徳天皇陵古墳の最寄り駅でもある百舌鳥駅を利用する来訪者の増加だけでなく、他の交通手段も含め来訪者全体を増加させる必要がある。
- ・広範囲に点在する古墳群を、効率的かつ楽しみながら周遊できる環境について、ハード面に加えソフト面でも環境を整える必要がある。
- ・来訪者に古墳群を分かりやすく紹介し、周遊の起点となる施設として、百舌鳥古墳群ビジターセンターを令和3年3月に整備済みである。今後より一層の来館者増加の取組が必要である。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・来訪者の増加が持続的なものとなるよう、現地で古墳を楽しめる新たな環境整備を計画的に行う。
- ・鉄道による来訪者が周遊しやすい環境を整備することにより、鉄道利用による来訪を促進する。また、あわせて他の交通手段も含めた来訪者が増加するような取組や情報発信を積極的に行う。
- ・整備したサインの適切な維持管理を行う。また、百舌鳥古墳群の周遊を促すハード面以外のソフト面の周遊環境も整える。
- ・百舌鳥古墳群ビジターセンターの施設整備後もより多くの方に来館いただくため、展示の工夫やイベントを開催する。また、周辺施設との周遊を促すための情報発信を行う。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設 アクセス道路	477	-	54	-	(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設 の事業計画の見直しに伴い、事業 が中止となったため。	なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設	古墳視点場	77	約354㎡	60	約354㎡	整備工事を市単独事業に位置付け たため。	なし	●	
地域生活基盤 施設	百舌鳥古墳群周遊サイン等整備	29	-	32	-		なし	●	
高質空間形成 施設									
高次都市施設	(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設	2,700	延床約4000㎡	156	約490㎡	(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設 の事業計画の見直しに伴い、事業 が中止となったため。	なし	●	
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理 事業(都市再 生)									
住宅市街地 総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	JR百舌鳥駅の乗降客数 (定期利用外)	千人/年	-	-	439	H25	540	R2	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定見込み	●	274	事後評価	△		
指標2	堺観光ボランティアガイドの件数(仁徳天皇陵古墳拝所前)	人/年	-	-	33,008	H26	40,600	R2	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定見込み	●	16,258	事後評価	△		
指標3									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	JR百舌鳥駅の乗降客数(定期外)は、H26年度435、H27年度436、H28年度429、H29年度423、H30年度422、R1年度448、R2年度274と推移した。R1年度は微増の448となったが、R2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少した。	R3年度296、R4年度350、R5年度369と回復傾向にあるが、従前値にも届いていない状況である。新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道輸送の利用動向自体に変動があり、指標についての検討が必要である。
指標2	堺観光ボランティアガイド件数は、H26年度33,008、H27年度49,875、H28年度41,252、H29年度48,636、H30年度46,972、R1年度96,786、R2年度16,258と推移した。R1年度には96,786と目標値を大きく上回ったが、R2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少し、結果的に目標値も下回った。	R3年度11,471、R4年度32,893、R5年度30,292と推移している。R4年度に仁徳天皇陵古墳拝所前のボランティア配置数が3名から2名に変更となったことにより、現在の数値は目標設定時と比較困難になっている。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
—	世界遺産課	令和7年12月～令和8年2月	世界遺産課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○		指標○		指標○		指標○	
指標名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業									
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標○			指標○		
指標名		JR百舌鳥駅の乗降客数 (定期利用外)			堺観光ボランティアガイドの件数 (仁徳天皇陵古墳拝所前)								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	古墳視点場	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、発生以降乗降客数が大幅に減少し、現状も回帰できてない状況である。鉄道輸送の利用動向自体に変動があったため、指標について再検討が必要である。	Ⅲ	—	令和元年度には96,786件となり目標値40,600件を達成している。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、発生以降来訪者が減少したため、令和2年度評価値では達成できなかった。その後ボランティア配置数が3名から2名に変更となったことにより、現在の数値は目標設定時と比較困難になっている。	Ⅲ						
	(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設	△			△								
	(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設アクセス道路	—			—								
	百舌鳥古墳群周辺サイン等整備	△			△								
提案事業	大仙公園駐車場誘導看板	—			△								
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	鉄道輸送の利用動向を踏まえた評価値の修正をした上で、鉄道利用の来訪者増加に取り組み、目標達成をめざす。また、他の交通手段も含めた来訪者が増加するような取組や情報発信を積極的に行う。	ボランティア配置体制の変更を踏まえた評価値の修正をした上で、仁徳天皇陵古墳拝所前への来訪者増加に取り組み、再度計測の上、目標を達成する。	
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
—	世界遺産課	令和7年12月～令和8年2月	世界遺産課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
来訪者おもてなし環境の整備	百舌鳥古墳群の中で2番目に大きい履中天皇陵古墳の北側に、そのスケールの大きな景観を楽しむことができる視点場を整備することで、巨大古墳を体感し、楽しみながら周遊できる環境を整えた。	—	
百舌鳥駅を核とした鉄道利用による来訪促進	百舌鳥駅近傍に周辺案内、資源解説を掲載する総合的な案内サインを設置した。	新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道輸送の利用動向自体に変動があり、指標についての検討が必要である。また、鉄道利用にとどまらず、他の交通手段も含めた来訪の促進が必要である。	
古墳群の周遊環境	百舌鳥古墳群周辺地区の周遊路に、来訪者に分かりやすく、地区内の歴史文化資源について必要な情報を得ることができサインを体系的で統一感ある形で整備したことにより、安心して周遊できる環境を整えた。	—	
周遊の起点となる施設整備	古墳群の価値と魅力を体感し、学べる施設として、(仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設を整備した。(百舌鳥古墳群ビジターセンター)	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	来訪者おもてなし環境の整備	来訪者の増加が持続的なものとなるよう、現地で古墳を楽しめる新たな環境整備を計画的に行う。	世界遺産石碑事業、寺山南山古墳整備事業
	古墳群の周遊環境	整備したサインの適切な維持管理を行う。また、百舌鳥古墳群の周遊を促すマップの配布や世界遺産周遊アプリのダウンロード促進により、ハード面以外のソフト面の周遊環境も整える。	百舌鳥古墳群ウォーキングマップ配布、世界遺産周遊アプリの運用と周知
	周遊の起点となる施設整備	百舌鳥古墳群ビジターセンターの施設整備後もより多くの方に来館いただくため、展示の工夫やイベントを開催する。また、周辺施設との周遊を促すための情報発信を行う。	百舌鳥古墳群ビジターセンター展示一部リニューアル、百舌鳥古墳群ビジターセンター内イベント開催、施設周遊情報発信

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	百舌鳥駅を核とした鉄道利用による来訪促進	鉄道による来訪者が周遊しやすい環境を整備することにより、鉄道利用による来訪を促進する。JR百舌鳥駅定期外利用の指標は、H25目標設定時～R1(コロナ発生前)の平均値433と最新のR5の369を比較すると約15%減少している状況である。堺市の各駅の定期外利用の低下がコロナ前と比較して9%程度となっていることを踏まえ、コロナ前の平均値433×0.92≒398の達成をめざす。また、あわせて他の交通手段も含めた来訪者が増加するよう、百舌鳥古墳群ビジターセンターへの来訪者を増加させる取り組みや、周遊を促すウォーキングマップの配布、世界遺産周遊アプリの運用と周知等に取組む。	百舌鳥古墳群総合解説板事業 百舌鳥古墳群ウォーキングマップ配布、世界遺産周遊アプリの運用と周知 百舌鳥古墳群ビジターセンター展示一部リニューアル、百舌鳥古墳群ビジターセンター内イベント開催、施設周遊情報発信

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	JR百舌鳥駅の乗降客数(定期利用外)	千人/年	439	H25	540	R02	確定 ●	274	△	あり	●	R9.6	令和8年度版堺市統計書におけるR7年度の百舌鳥駅(定期外)の乗降客数	今後のまちづくり方策の改善策に記載のとおり、目標値を398に修正する
指標2	堺観光ボランティアガイドの件数(仁徳天皇陵古墳拝所前)	人/年	33,008	H26	40,600	R02	確定 ●	16,258	△	あり	●	R9.6	ボランティアガイドを実施している堺ボランティア協会の仁徳天皇陵古墳ガイド客数(定点ガイド)の記録	ボランティアガイド体制の変更を踏まえ、27,066を目標とする。
指標3				H		H	確定			あり				
指標4				H		H	確定			あり				
指標5				H		H	確定			あり				
その他の数値指標1	百舌鳥古墳群ビジターセンター入館者数		91,102	R4			確定 ●	112,100				R9.6	施設運営委託業者からの報告書	今後のまちづくり方策の改善策に記載した、同館の入館者数を指標とする。コロナ後R4年度の値を初期値とし、112,100とする。
その他の数値指標2	仁徳天皇陵古墳来訪者数		166,993	R4			確定 ●	205,500				R9.6	百舌鳥・古市古墳群世界遺産協議会モニタリング報告書	指標2の目標値変更に伴い、来訪者増加の指標として新たに追加する。コロナ後R4年度の値を初期値とし、その約123%の205,500とする。
その他の数値指標3				H			確定							